

# 山形市立滝山小学校 平成19年度校内研究

## I 研究の概要

### 1. はじめに

人は、生まれながらにして他とのかかわりをもちながら生きている。また、将来にわたって他とのかかわりをもって生きていくものである。わたしたちは、他とのかかわりをもって生きていくことへの「喜び」「楽しさ」を感じる子どもたちに育てていきたいと思っている。

確かな学力の定着が求められている今日、わたしたちも教育課程の工夫を通して、一人一人の子どもたちに基礎基本を大切にしながら指導にあたってきた。なかでも意欲的に「授業」に取り組むこと、基本的な知識・技能の定着、学び方を学ぶことを基盤とし、表現力にもスポットをあてながら取り組んできた。しかし、目に見える学力はあるにもかかわらず、それを生かすことができない、十分に発揮することができない子ども、まして大人が増えてきている現状を危惧している。それは、学力というものが「個」にとどまり、自分の内面から外側に向けて十分に発揮されていないからである。つまり、より生きて働く確かな学力を他とのかかわりの中で育てていくことが責務であると考えている。子どもの内側にある学力が他とのかかわりの中で高められたときに、確かな学力が身に付き、将来にわたって生きる力となっていくと考えている。

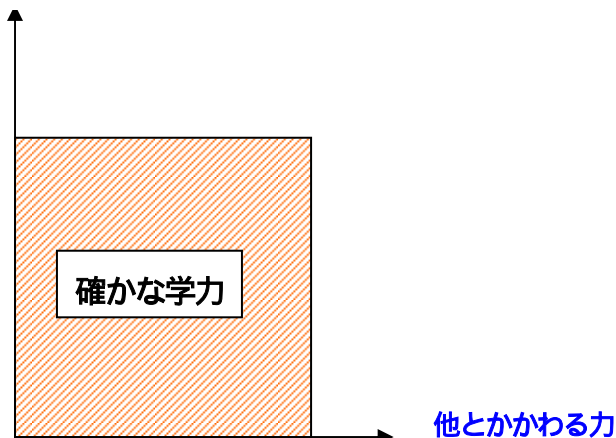
そこで研究テーマを「他とのかかわりながら確かな学力を育む教育課程の創造」とし、全教育課程を通じた活動をすべて「授業」ととらえ、それぞれに応じた挑戦したくなるような課題を設定していくとともに、その「授業」において、子どもたちの持つ価値を『他とのかかわりながら学び続ける』ことで高め、よりよい、将来にわたって生きて働く確かな学力を育てていくことをめざしてきた。

一方で、子どもたちに確かな学力を育むために、私たち「教師」はどのような「教師」をめざしていくことが必要なのだろうか。まずこれまでの授業を真摯に振り返り、改善していこうとする意志を持つことが必要である。そこで平成17年度までは、子どもたちの実態をしっかりとらえる目を養い、「子どもの育ち」という視点で授業分析に力を入れた。指導案とともに大切にしてきた「個別支援表」を活用し、抽出児童の反応をくわしく観察して語り合う事後研究会などを行ってきた。また、教師自身の振り返りも大切に考え、授業研究会後に「どんぐり（自身による授業の分析）」を発行してきた。

そして今年度は、「単元の本質をとらえること」を授業づくりの基本とし、魅力ある課題を子どもたちに提示していくようにしていくことが大切であると考え実践してきた。教師は、単元の本質をとらえ、子どもたちのどのような反応に対しても、その真意を理解しようと努めることで、他とのかかわりを支える潤滑油のはたらきをしていった。また、子どもたちの様々な反応のなかにある、目標に迫る真の部分を見つけ出し、紡いでいくことも大切に考えていった。子どもたちは、単元の本質に触れたとき授業の楽しさを味わうのである。

教師が振り返りを大切にし、仲間とともに自分自身の気づきを掘り起こし、実践に生かしていこうとする姿勢をもち続けることも、子どもたちに確かな学力を育む大切な視点であるとあらためて感じた。

目に見える学力



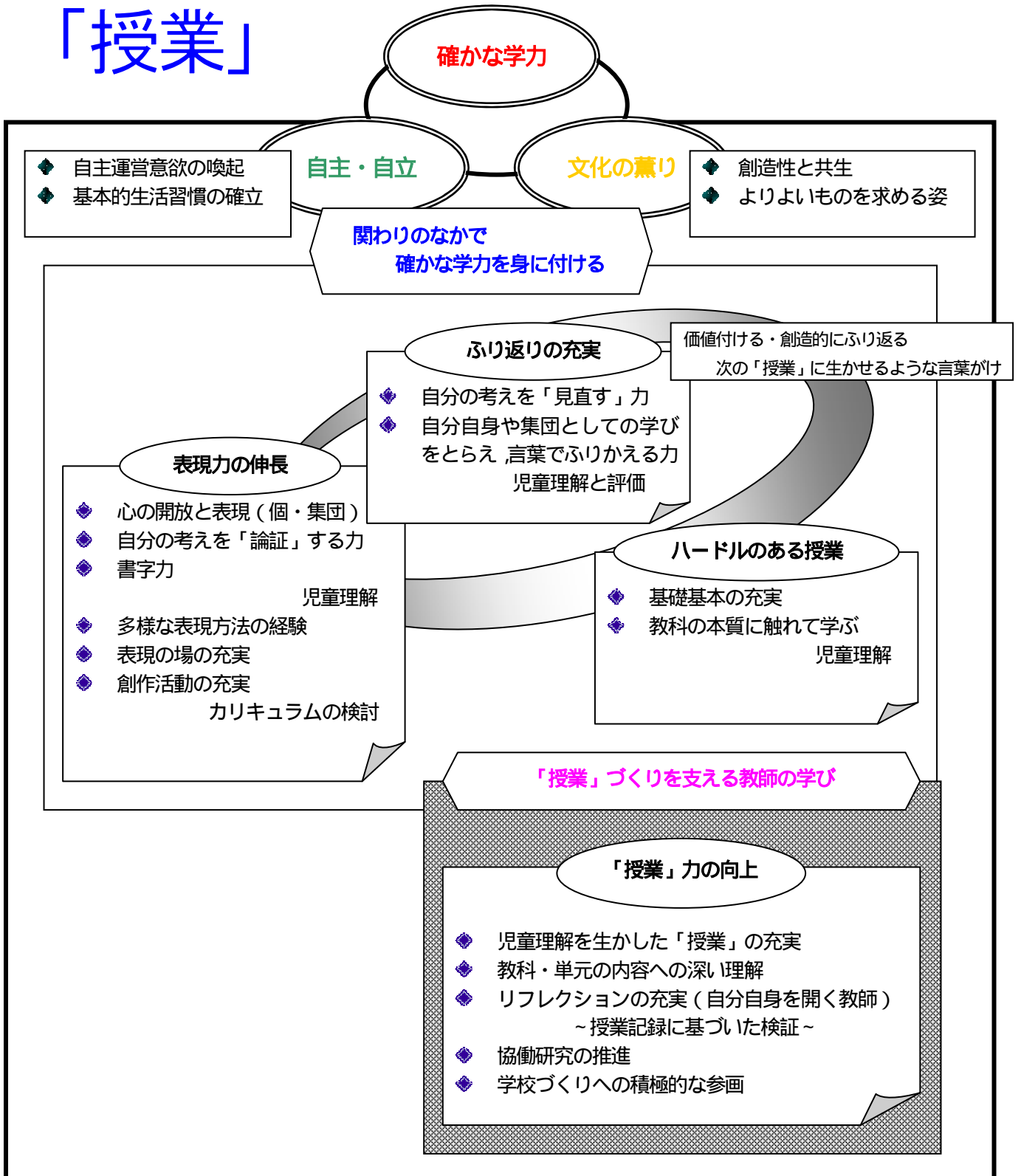
生きて働く確かな学力のイメージ

2. 19年度の基本的な方針

昨年度の研究の方針を継続していくとともに、教育課程のねらいを踏まえ、実践を重ねていく。

- 目に見える学力とともに、それを生かす「他とかかわる力」を伸張していく。  
 関わりのなかで確かな学力を育む・・・表現力に視点をあてて
- 教育課程全体を通した活動をすべて「授業」とし、子どもたちの学びを形成していく。
- 「授業」は子ども理解に始まり、子ども理解に終わるという理念のもとに、  
 子どもたちと「授業」づくりに臨んでいく。
- 「授業」づくりを支える『教師の「授業」力』も視野に入れ、  
 教師自身が自己を開いてふり返りを大切にし、学び続けていくようにする。

# 「授業」



### 3. 研究テーマについて

## 他とかかわりながら 確かな学力を高める教育課程（4年次）

児童の立場に立ったテーマ

教師・学校としてのテーマ

### 4. めざす子どもの学びの姿



## 他とかかわりながら学び続ける子ども

かかわりのなかで確かな学力を育むことで、将来にわたって生きて働く学力を身に付ける子どもを育む

そのために一人一人に求める姿は

- 自分の考えをもち、意志を決定できる子ども
- 心を開いて豊かに表現することができる子ども
- 自分をふり返し、自らの生き方に生かすことができる子ども

#### 自分の考えを持ち、意思を決定できる子ども

他と主体的にかかわる子どもを求めていくうえで、一人一人の子どもが考えを持つことは、前提となってくる。また、その考えがより主体的であり、かかわりのなかで選択したり、自らの考えを確立したりすることでよりよいものをめざす姿勢も生まれてくると考える。 自主自立へとつながる主体的な意志を持つ子ども

「授業」のなかで、意志を決定するのは子どもであり、われわれ教師は、その決定する材料を子どもとともに構築していかなければならないと考える。

#### 心を開いて豊かに表現できる子ども

自分の思いを表現する方法は多様にある。しかし、そのもととなるものは、自分の心にあることを素直に表現する姿勢である。つまり、心を開いて表現しようとする事、心を開きたくなるような集団を形成すること（心を開いて聴く集団であること）がかかわりのなかで学びを構築していく基となる。

そのためには、表現したくなるような言葉をかけること、期待感を持って子どもに対することなどの力量が求められる。また、子どもが話したくなるように根掘り葉掘り聴く児童集団を育てていくことが望まれているのではないだろうか。

#### 自分をふり返し、自らの生き方に生かすことができる子ども

自らの学びを自らでふり返し、価値付けていくことは成長を明らかにする上でも大切になってくる。また、自尊心を高めるとともにさらに次の「授業」、学びに向かう意欲を喚起することとなる。加えて、次の学びに向かう課題意識を持つことでその学びはさらに大きく確かなものとなっていくと考える。この繰り返しのよって、自らの生き方を構築していく基盤を培っていくのではないだろうか。

従って、わたしたち教師は、華やかに完結するふり返しを求めるのではなく、次の学びへと続く創造的なふり返しを仕組んでいくことが求められてくると考える。

## 5. 研究の内容・方法について

### 『本年度の主な研究の内容』

上記のような子どもの姿を求めるためにわたしたちは何をすべきなのか、それは

## 深く、確かな児童理解に基づいた「授業」づくり

多数の目で児童理解を進め、語り合い、深い追究のなかで、妥当性を求めていく協働性が大切になってくると考えます。そこで、

学年を越えた児童理解を推し進め、「授業」づくりを推進することに挑戦していく

### ◆ 学年部を中心に縦のつながりを大切にした児童理解と「授業」づくり

国語科・算数科・図画工作科を窓口にして

～図画工作科を窓口と新たに加えるにあたって～

今年度の教育課程を編成する上で話し合われた児童の実態（昨年度、多目的室にて、児童の実態を学年部ごとにキーワードを出し合って相談しました）を踏まえると、図画工作科の大きなねらいである「進んで表現する姿、創造的に表現する姿、豊かな情操を培う」について、大きな課題が投げかけられた。また、表現力ということに視点を設けた今年度の研究から考えると、国語科や算数科における論理的な表現に加え、図画工作科における創造的に表現する態度を育てていくことがわたしたちの課題であるととらえた。

児童の実態を踏まえ、それに基づいた「素直に表現する子どもの育成（教育課程編成の指標）」という課題を意識すると、図画工作科を窓口に加え、児童理解を深めていくこと必要ではないかと考える。

また、本校の教科指導の実情を踏まえると、まず図画工作科を皮切りに、1年生から6年生まで見据えた学習の流れを意識し、児童の学びの流れをわたしたち教師が学んでいくことも大切ではないかと考える。

### ◆ 教科部の機能を再考し、それをもとにした児童理解と「授業」づくり

カリキュラム及び求める子どもの姿の検討（学習指導部）

### ◆ 児童による学校づくりの推進（わたしたちの学校という意識の向上）

みんなで創る運動会の継続・児童会活動の見直しと充実

3rd stage として、どの学年のどの教科の授業においても、子ども理解という視点でしっかりとした授業分析ができる校内研究、教師集団になっていきたいと考えている。

### 『研究の方法』

#### 📖 「授業」研究会の実施

教科を絞り、学年の枠組みを越えたチームで子ども理解に基づいた「授業」作りに臨み、各部ごとに授業提案を行っていく。（全校研・学年部研）

また、授業リフレクションで児童理解を進めるとともに、教師の「授業」力の向上を図る

特に今年度の授業リフレクションは、3月に実施したように詳細な授業記録をもとにした、児童理解を柱に進めるようにする（児童理解と教科の本質）

#### 📖 学級を開く「授業」交流の推進と日常化

上記教科以外においても、子ども理解に基づいた「授業」を日々実践し、積極的に交流していくことができるようにする。教科部主催の授業の積極的な交流（教科主任との連携）

#### 📖 「授業」を語る会の計画と実施

今年度公開研究会でスタートした実践交流を継続する意味でも、11月下旬に、他校の先生方数名を交え、「授業」を語る会を実施していく。学年部1授業+図工部1程度でどうか

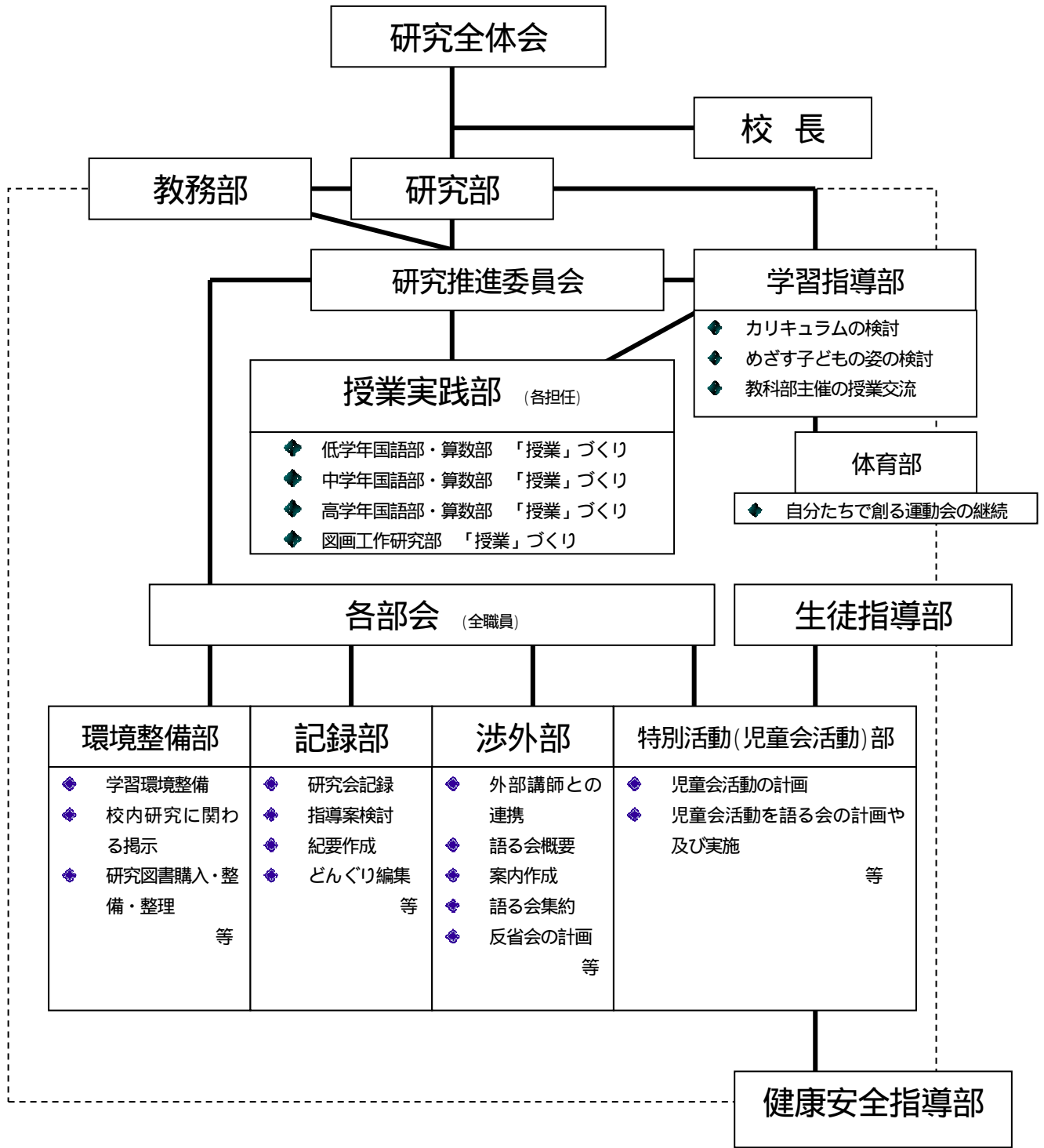
#### 📖 カリキュラムの及び求める子どもの姿の検討（学習指導部と連携しながら）

#### 📖 児童会活動の見直しと充実

#### 📖 みんなで創る運動会の継続

#### 📖 研究会、研修会への積極的な参加

6. 研究の組織



7. 心がけたいこと

すべての活動が「授業」であると意識しています。

教師も子どもも「ふり返し」を大切に考えています。

「授業」は子どものものという意識をもっています。

子どもも教師も、共感的に「聴く」ことを大切にしています。

教師も子どもも、日常的な言語環境に気をつけています。

子どもの姿から学んでいます。

「授業」は、子ども理解に始まり、子ども理解に終わると考えています。

教師も常に変わろう、前進しようとしています。

日々、このページに書かれている項目を増やしていくことも

大切だと考えています。